

復活日

2025年4月20日

風のように



甘木教会

主任牧師：白川道生

牧会委嘱牧師：竹田孝一

あの方は、ここにはおられない。
復活なされたのだ。

ルカ24：6

【説教要旨】

教会にとって、最も大切な記念日は、主の復活です。

彼は死者を求めていきました。「そして、週の初めの日の明け方早く、準備しておいた香料を持って墓に行った。」墓は死者の世界です。しかし、「見ると、石が墓のわきに転がしてあり、中に入っても、主イエスの遺体が見当たらなかった。」とあります。婦人たちがしたうべき主イエスの亡骸がない。それは理解できないことでした。「そのため途方に暮れている」とあるように、婦人たちが復活の出来事を理解できず、途方に暮れることが起きたのです。

婦人たちが墓に向かったように、私たちは生まれてきたときから墓、死に向かって生きているのです。死は自分の思うようにならない世界へと向かわせるということであり、死は、不条理なものであり、理解ができないものであるということを実感させられます。私たちは、知っています。不条理にして、理解できない死を復活の三日前に、キリストは、十字架の死を引き受け、共に死のうちにいてくださったことを。確かに十字架は死しかありませんでした。しかし、今日の朝、そこに、死はなかった。

そのため途方に暮れていると、輝く衣を着た二人の人がそばに現れた。婦人たちが恐れて地に顔を伏せると、二人は言った。「なぜ、生きておられる方を死者の中に捜すのか。あの方は、ここにはおられない。復活なさったのだ。まだガリラヤにおられたころ、お話しになったことを思い出さない。人の子は必ず、罪人の手に渡され、十字架につけられ、三日目に復活することになっている、と言われたではないか。」そこで、婦人たちはイエスの言葉を思い出した。

死は不条理なものであり、理解ができないものでなく、不条理なものであり、理解ができないものを超える復活の命があると復活の物語が告げられています。確かに人は、死に向かって生きています。これはまぎれもない事実です。まぎれもない人の事実を超える神の事実があります。この事実こそ、真理です。新しい命、永遠の命なる真理に私たちの世界は溢れていると告げるのです。

「途方に暮れている」とあるように、聖書は復活の出来事のなかで人の気持ちをあらわしています。私たちが生きていくとき、途方にくれるそういう自分がいます。97歳のお母さんを一人でお世話をしてきた方がいます。今、天にお母さんが帰られようとしている時を迎えました。自分の生涯がお母さんを世話することでした。途方に暮れさせました。この途方にくれること、恐れ、暗い顔から復活は、自由にされていく出来事なのです。

人は一生懸命、病と闘い、死と闘い、行動しますが、しかし、結果は意図に反して不条理で途方に暮れさせるという出来事がしばしば起きます。途方にくれる、恐れがある、暗い顔になる、そういう世界があります。しかし、私たちは、この世界に生きない。「なぜ、生きておられる方を死者の中に捜すのか。あの方は、ここにはおられない。復活なさったのだ。」と天使が告げたイエス・キリストの復活の命、永遠の命を生きるのです。永遠の命は私たちを恐れ、

とまどい、途方にくれること、途方に暮れた暗い顔から私
たちを解放するのです。

「なぜ、生きておられる方を死者の中に捜すのか。あの方
は、ここにはおられない。復活なさったのだ」。死を超えて
いく自由がイエス・キリストのうちにがあると強く神は宣言す
るのです。このイエス・キリストの生命の中に生きてこ
そ、希望をもって、私たちはすべてから自由にされ、強
く、生きていく実感が出来るのです。「イエスの死が、死で
ないということが啓示されます。これが、復活の信仰です。過去
のやみにおおわれた心を光に、そして絶望におおわれた心を希望
にかりたて、悲しみにつつまれた心に喜びを与えるのがキリストの
復活です。ですから、キリストの復活は、希望の啓示です。」①
そして、墓から帰って、十一人とほかの人皆に一部始終を知ら
せた。それは、マグダラのマリア、ヨハナ、ヤコブの母マ
リア、そして一緒にいた他の婦人たちであった。婦人たちは
これらのことを使徒たちに話したが、使徒たちは、この話が
たわ言のように思われたので、婦人たちを信じなかった。

復活は、「たわ言」にしかみえない。しかし、イエス・キ
リストの命によって「たわ言」でなくなっているのです。
復活は、私たちの前にある躓きを畳ませ、清算し、人知を
超えて、私たちを強いものとされるのです。

ペトロは立ち上がって墓へ走り、身をかがめて中をのぞく
と、亜麻布しかなかったので、この出来事に驚きながら家に
帰った。人の事実を超える神の事実、真実、真理に驚くし
かない、いや驚く出来事が復活です。そして、弱いペテロ
か殉教もなすペテロへ驚くべき人へと帰ったのも復活の出来
事です。イエス・キリストの復活の命の光の中で私たちの
人生を驚きつつ、生き、永遠の命の希望のうちに共に生
き、驚くべき人へと帰られていきます。私たちにはここ
にはおられない。復活なさったのだと驚きつつ、それぞれの
人生へと帰って行きましょう。

引用:①(「神のやさしの中で」森一弘補佐司教、女子パウロ会)

牧師室の小窓からのぞいてみると



世界は、トランプ大統領の「相互関税」政策により、これを新たな世界の始まりというのか、これをもって世界を終わらすと解釈するかは、人それぞれだと思います。こう思わす時が歴史に何度もでてきます。

コヘレトは「昔もあったことは、これからもある」と言い、「太陽の下、新しいものは何一つない」という。今、起きていることを落ち着いて見よと言っているのではないかと思う。「見よ、どれもみな空しく、風を追うようなことであった」時が真実を教えて、きっと今のことは空しいこととなる。ただ、目に見える事象に一喜一憂するので、今こそ落ち着いて世を見ること、それ以上に神を見ることではないだろうか。世を生きつつ、もう一つの命、み言葉の世界を生きることこそが、世が見えてくるように思う。祈り、聖書を読むことが最も大切なことはない。

園長・瞑想？迷走記



幼稚園の入園式が行われた。この時期、卒園生は、小学校、中学校、高校、大学、社会人となっていく。

引退して、その上に東京を離れたにもかかわらず、数人であるがわざわざ葉書を送ってくれる子どもたちもいる。嬉しい神さまのプレゼントである。小さな園のおかげで、私の頭の中では、いつまでも一人一人は幼稚園生のままであるが、だれだれさんはもう大学生か、いや社会人になったかといつも心に思い、成長を祈っている。いつまで一緒に寄り添い合い歩みたい。

日善幼稚園(九州・久留米)に来て、日吉小学校の通学路である園の外を掃除しながら小学生に朝の挨拶をしている。そんな中で、今年の卒園生が必ず幼稚園に寄ってくれている。神様からの贈り物だと嬉しくなる。いつかは完全に巣立っていくだろう。

日毎の糧

死ぬことなく、生き長らえて

主の御業を語り伝えよう。 詩篇 118：17



ルターの言葉から

イエス・キリストは死より復活された。……人は、「キリストは死より復活された」という言葉によく注目し、一字が搭のように、いや、天と地ほど大きな文字で書くべきである。この信条のほか何も見たり聞いたり考えたり知ることも出来ないほどに。

もし、このように信じるなら、私たちは良く生き、良く死ぬであろう。なぜなら、キリストは、ご自身のためだけに死を克服され、復活されたのではないからである。それは私たちにもかかわり、私たちもその「復活」に立ち、とらえられ、また、そのゆえに、それを通して私たちも復活し、彼と共に永遠に生きるのであるということを、身近にしっかりと心にとめていなければならない。

『慰めと励ましの言葉 マルティン・ルターによる 一日一生』
湯川郁子訳 徳善義和監修 教文館

立ち上がる

復活という聖書の言葉は、名詞で「アナスタシス」、動詞で、「アニステーミ」で、「立ち上がる、立ち上がらせる」という意味です。正確かどうかは分かりませんが遠藤周作が「イエスの生涯」という本で、「十字架の以前のだらしない弱い弟子が、これが同じ人間かと思えるほど別人のように強い人間になっている。考えられない。だから復活はあったのだろう」と書いていました。まさに倒れていたものが立ち上がらされた、復活の意味です。

ルターは「キリストは、ご自身のためだけに死を克服され、復活されたのではないからである。それは私たちにもかかわり、私たちもその「復活」に立ち、とらえられ、また、そのゆえに、それを通して私たちも復活し、彼と共に永遠に生きるのであるということを、身近にしっかりと心にとめていなければならない。」とように私たちも立ち上がりたいのです。主と共に。そして、死ぬことなく、生き長らえて、主の御業を語り伝えていきましょう。

祈り：主よ、主の御業を伝えるものとしてください。

甘木通信

祖父は宮大工



私の母方の祖父は、宮大工だった。亡くなった祖父の多くの工具が家にあった。何が何か分からず祖父の残した工具で遊んでいた。家を建てるときに全てが捨てられ、今となって、その工具をどう使うのか分からないままに終わったことを後悔している。

そんなことで神社仏閣に興味を持ち、宮大工に興味をいだきだした。そんなときに宮大工・西岡常吉さんの本に出合った。そして好きな坊さん高田好胤さんと深い関係を知った。Wikipedia で二人の関係を記している記事を紹介したい。

「そして金堂棟上げ式の時、橋本凝胤が棟木に高田管長名を書き入れ、反発した高田が西岡の名前を書き入れるよう訴えた事件が起こり、常一は自身の慾を捨てた高田の態度に心服する。すっかり惚れ込んだ常一は、この人がいるのなら西塔建立ができると、金堂落慶法要直後、西塔再建の建白書を高田に提出する。この時高田は『あんたはひどい目にあわす人や。』

（『宮大工棟梁・西岡常一「口伝」の重み』日本経済新聞出版社、新版・日経ビジネス人文庫。）とぼやきながらも笑っていた。」

いくつかの教会、施設の建築に関わってきたが、このような出会いがうらやましく思うし、いつも現場監督と交流をしてきた。人との出会いが死んだ薬師寺を今日の薬師寺に復活させた。仏さんの引き合い。私たちも人と出会い、復活のキリストの導きで新しい世界を作り上げられる希望をもって歩もう。

(甘木日記)土) 夜、甘木へ。日) 日善幼稚園就任式で甘木教会の担当をM牧師にさせていただく。誰も zoom 礼拝の仕方が分からず送信できずと後で聞く。マニュアル化しなくては。月) 日善幼稚園の最初の礼拝。人の配置で急遽、園長が司会。蝋燭を点火するのを忘れて園児に謝るとすぐに主任にご注進された。(笑)聖月曜日の礼拝。火) 胃カメラの検査後、再度、幼稚園、聖火曜日の礼拝に。水) 聖水曜日の礼拝。夫婦二人、のこのこと電車で。いつまで行けるか。泊。木) 松崎保育園の聖書の学び、礼拝。聖書の学びは3月の聖句を使い、礼拝では主の祈りを忘れている。頭は衰えている。聖木曜日の礼拝。金) 歓迎遠足は早朝の雨で、園内でと保護者に送信、9時、晴れそう。急遽、予定通り変更。バタバタ。MRI 検査。聖金曜日の礼拝。

おまけ・牧師のぐち（続日記）牧師だって神さまの前でぐちります。ぐちらない聖人（牧師）もいますが。



土）今日は最悪に胃の調子も悪い。体は熱っぽくかったり。体が動かない。月曜日には大きな病院に行こう。甘木に来て、主日の準備をして泊まる。70歳を越えると死を考える。来週からの受苦日礼拝は出来るのか不安になってきている。日）久留米教会で日善幼稚園職員就任式のため甘木教会の礼拝担当が変わる。zoomを操作できる人がいなくてzoom配信が出来なかった報告があった。マニュアル化する必要がある。胃の調子さらに悪く。寝込んでいる。月）日善幼稚園の最初の礼拝。新学期で人の配置を考えなければいけなかったのも、急遽、司会が主任から園長へ。蝋燭を点火するのを忘れて、園児に謝るとすぐに主任にご注進された。（笑）調子悪く、久留米の信徒さんに名医の胃腸科病院の前に連れて降ろされる。この病院の建物が実に美しい。良い建物を見た。問診も丁寧で久しぶり良い医者にあった。今日から聖週間の礼拝。聖月曜日の礼拝に甘木へ。火）早朝、幼稚園に行きその後、胃カメラを飲み、病院へ。結果は良くなく金曜日に肝臓のMRIの検査。なるようになるさというところ。再度、幼稚園に。聖火曜日の礼拝に甘木へ。水）聖水曜日の礼拝。夫婦二人でのこのこと電車、歩けるのはいつまで行けるか。礼拝後、甘木へ泊る。息子へ宣教費を送る。車も電子化して車検がかかるらしい。そういえば東海教区で教区を出るときに返すという牧師に非常時の時のときの貸し付けをしていた。我ながら良い制度だと思う。木）甘木から松崎保育園へ。玄関に入ると鯉がすいすいと泳いでいる。季節を感じ、うれしくなる。聖書の学び、礼拝。聖書の学びは3月の聖句を使い、礼拝で、主の祈りを忘れた。（甘木鉄道・甘木駅）



体も頭も衰えてきていることを実感。許されて、歩む。明日、再度、肝臓のMRI検査。何かあればと、自分が死んだら、ビビりだから家内が一人で次男の近所に住めるマンションをインターネットで探す。聖木曜日の礼拝。今日も仕事の後にもかかわらず信徒さんが久留米まで送ってくださる。感謝金）幼稚園は歓迎遠足だが生憎の雷と雨。5時に起きると5時半に電話が。園内での遠足の決定と事務で6時になって保護者への連絡をメールで依頼するが、雨も



（鯉のぼり）止み、9時に急遽、予定通りと変更。晴れて良かった。MRI検査終了。夜は聖金曜日礼拝。聖週間の礼拝が出来ました。